



インバックスグループ

SDGsワーキンググループ

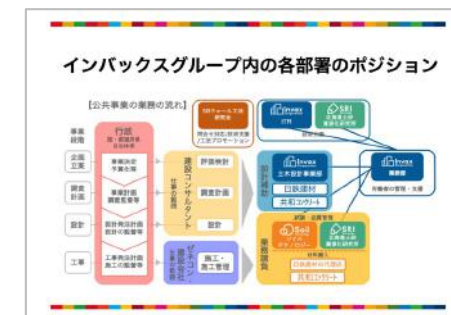


04

2022.06.17



第4回ワーキンググループでは
インバックスグループの事業について
再確認、現状のSDGsに寄与する取組み
について学び、インバックスグループが
SDGs達成に貢献できる目標を検討しました。



03

2022.05.13



SDGs宣言の仕方

- ◆決意表明型 ... SDGs達成に貢献することを表明する。
- ◆プロセス型 ... SDGsへの取り組み過程を社内外へ発信する。
- ◆アクション型 ... KPI・KGIを掲げる。
- ◆ESG型 ... 投資家へ向けて、投資の判断材料となるレポートを示す。

インバックスグループの現状はどうか？

災害対応で普及した理由

— 砂防ソイルセメントの活用メリット —

- メリット1：施工期間の短縮
砂防ソイルセメントを建設材料とする工法はコンクリート施工で必要となる養生期間が不要なため速乾施工が可能。これによりコンクリート施工と比べ施工期間を短縮することが出来る。
★ 施工期間 約42%短縮
- メリット2：コスト削減
現地土砂を建設資材として活用するため、大規模コストダウンに繋がる。
★ コスト 約33%減
- メリット3：多様な施工条件への適合
現地土砂含有率の差で砂り混じり建設資材とするため、コンクリート搬入の必要がなく、コンクリートの調達が難しい現場、工事行進路の計画が難しい現場、既設地盤が難しい現場等、多様な現場条件に対応することが可能。
- メリット4：搬出土砂の減少
現地土砂を活用するため、土砂を搬入する場所が少なくなる。
★ CO₂排出量 約47%減
- メリット5：環境負荷低減への寄与
生コン車等の運行台数を大幅削減することにより、二酸化炭素の排出量や騒音・振動、粉じんを減らし、環境負荷を低減させることが出来る。また、近隣住民や観光客などの一般車両、登山客に対する安全性の向上も図れる。

第3回ワーキンググループではSDGsの宣言の仕方、インバックスグループの事業に関わる各種内容、公共事業について、グループが目指す方向性について学びました。

インバックスグループが目指す方向性

— 『盛り土問題』の解決へ向けて—

近年、熱海での盛り土の崩落事案をきっかけに、土木建設現場で必ず発生する建設残土は『盛り土問題』として一般に大きな社会不安として認知されるようになってきている。この盛り土問題は以前から問題視されてきた残土処理問題の一部に過ぎず、さらに、今後新たな土木事業を実施する際の土捨て場の確保が困難なことや盛り土自体の安全性確保等、事業推進の問題となっている。

公共事業 防災設備整備 道路整備 河川整備 港湾整備 市街化整備	建設残土が発生	79% そのまま利用	1% リサイクル&再利用	20% 土捨て場へ
---	---------	---------------	-----------------	--------------

年間で5,000万m³~6,000万m³の土砂が土捨て場に搬入されていると想定される。

様々な問題
・森林破壊
・不法投棄
・土砂崩れ
↓
残土処理問題

『盛り土問題』の新たな解決方法

— 建設残土を余すことなく資源化 —

「大量の建設残土」と「土砂を材料として防災施設を建設できる技術」。このマッチングで課題を解決。

持て余している大量の建設残土

様々な土砂を材料として資源化し
防災施設を建設できる技術

このマッチングで課題解決

防災施設

02

2022.04.15



なぜSDGsに取り組むべきなのか？

(SDGs注目の背景)

- 国連によるESGに関する提言
- 社会課題に対する危機意識の高まり
- ビジネスチャンスの認識



(SDGsに取り組むメリット)

- 新規事業創出につながる
- 企業のイメージアップにつながる
- 事業や製品やサービスに付加価値が生まれる
- 資金調達が有利になる

「SDGsを使い倒す」企業が勝ち抜くから

言い換えれば、

SDGsに取り組まない企業は競争社会から取り残される

第2回ワーキンググループではSDGsに取り組む理由、世界や日本の取り組み動向、SDGsの取り組みとして評価が高い企業の事例について学びました。

日本の動向

2016年 SDGs推進本部発足

毎年SDGsに関する取組としてアクションプランを策定。アクションプランは、8つの優先課題と具体的な施策で構成されている。



【8つの優先課題と具体的な施策】

①あらゆる人々の活躍の推進

■一億総活躍社会の実現 ■女性活躍推進 ■子供の貧困対策 ■障害者への社会参加支援 ■教育の充実

②健康・長寿の達成

■高齢者に対する健康増進支援 ■健康寿命の延伸 ■介護予防・認知症対策 ■健康格差の解消

③成長市場の創出、地域活性化、科学技術イノベーション

■新産業の創出 ■新産業の創出 ■新産業の創出

④持続可能な国土と質の高いインフラの整備

■国土強靱化の推進 ■国土強靱化の推進

⑤省・再生可能エネルギー、気候変動対策、循環型社会

■省エネルギーの推進 ■再生可能エネルギーの推進

⑥生物多様性、森林、海洋等の環境の保全

■生物多様性の保全 ■森林の保全 ■海洋の保全

⑦平和と安全・安心社会の実現

■平和と安全の実現 ■安心社会の実現

⑧SDGs実施推進の体制と手段

■SDGs実施推進の体制 ■SDGs実施推進の手段

日本版SDGsアクションプランのポイント

○地方創生の観点からSDGsを原動力とした地方創生、
強靱かつ環境にやさしい魅力的なまちづくり

地方創生SDGsの推進に向け、優れたSDGsの取組を実施する地方自治体を「SDGs実証都市」として選定し、その中で特に優れた取組の取組を「SDGs実証都市」の取組として認定して支援し、成功事例の普及を促進しています。



01

2022.03.11



SDGsワーキンググループ開催の目的

インバックスグループ社員がSDGsの理解を深めて、
会社の事業推進に効果的に利用していくため

【具体的なワーク（開催ペース：月に1回）】

- SDGsのこと、SDGsとビジネスとの関わりを知る
- SDGs達成のためのインバックスグループ独自の目標を立てる
- その目標を実行していく

社内の各部署から代表者を選出し、
第1回ワーキンググループでは
開催の目的、SDGsとは？、
SDGsとビジネスの関わりを学びました。

SDGsとは何だろう？

= Sustainable Development Goals
(持続可能な開発目標)

2015年に国連加盟国が2016年から2030年の15年間で
達成するために掲げた世界を変革するための目標

SDGsが目指す17のGoal

SDGsを考える上でこの3つ（環境・社会・経済）の基盤がポイント

【環境】 人々が生活するために必須となる自然環境、一層下を支える土台

【社会】 人間らしい生活ができることにより社会を充実させることができる

【経済】 環境・社会が整うことで経済活動を行うことができる

環境・社会・経済が揃うことでパートナーシップが実現できる

ビジネスにおけるSDGsの考え方

事業の利益と社会貢献を区別しない
つまり、社会に貢献する事業を展開し、
利益を出して蓄けながら継続して
世界を良い方向へ変えていこうという考え方

事業利益

社会貢献